

## 令和元年度 第1回学校運営協議会 記録

記録者 野口、坂下

### 1 日時・場所

令和元年7月20日(土) 10:00~12:00 応接室

### 2 出席者

学校協議会委員 (6名中5名出席)

会長 辻 量子  
副会長 岩野 豊治  
委員 大堀 彰子  
委員 歌野 玲子  
委員 松浦 宏樹

学校関係者 (8名)

准校長 西川 修  
教頭 長子 等  
教諭 神田 大地  
教諭 牧 友祐  
教諭 川端 祥次  
教諭 野口 結衣  
教諭 坂下 一輝

### 3 議事内容

- (1) 会長あいさつ
- (2) 委員・事務局紹介
- (3) 学校運営協議会の実施要項等について
  - ・ 会長及び副会長の決定
- (4) 学校経営計画
  - ・ 学校経営計画等の資料に沿って、「めざす学校像」、「中期的目標」、「本年度の取組内容及び自己評価」等について(説明者: 准校長)
- (5) 学校の現状と課題
  - ・ 本年度の「在籍者数」及び「年間行事予定」、「令和元年度使用教科書選定」、学校設定科目「ベーシック教養」、「昨年度の特別指導」、「授業参観におけ

る前年度との比較」について

(説明者：教務主任)

- ・ 本年度の「生徒指導の現状」及び「懲戒指導のまとめ」、「部活動」、「生徒会行事」について (説明者：生徒指導主事)
- ・ 本年度の「学校保健年間計画」及び「健康診断の現状」について (説明者：生徒指導主事)
- ・ 昨年度の進路状況と今年度の進路希望状況について (説明者：進路指導主事)
- ・ 「志願者数等の推移」、「夏季休業までの学校行事」、「中学校訪問」、「職員研修の予定」について

(説明者：教頭)

#### 4 協議内容 「本校の現状と課題を踏まえた今後のあり方」

##### (1) 資料 19 「特別指導実施後の進級・卒業人数」について

委員：3・4年生の特別指導を受けた者で、退学や留年に至った理由は何か。

事務局：年度途中で学校に気持ちが向かなくなり、欠席日数が増えたことが原因として挙げられる。気持ちの浮き沈みの激しさも大いに影響していると考えられる。

##### (2) 資料 20 「6月授業参観における前年度との比較」について

委員：授業参観に来られる保護者はどのような方が多いのか。

事務局：1年生の保護者が多くを占めている。不登校経験者が7割程度と多いので、定時制高校というところで馴染めているかどうか気になるようだ。また、この期間は懇談も同時に実施しているので、懇談の前後に授業を参観するという流れができているように思われる。

委員：全生徒数に対して約10%の保護者が来られているようだが、この数字は満足してよいものなのか。

事務局：今後も保護者懇談と同時期に授業参観を行うことで、学校に関心の高い保護者の参加を増やせようとする。

委員：14～15年前と比較しても、参観に来られる方の数はかなり増加している。学校に関心をもっている保護者が増加している良い傾向だと思う。

##### (3) 資料 25 「令和元年度進路指導部年間行事予定」について

委員：進学を希望する生徒が増えているようだが、進路指導を行うにあたり、

来年度から開始される給付型奨学金の情報提供などはどのように行っているのか。

事務局：保護者向けに奨学金説明会を実施したり、該当しそうな生徒については、個別に面談をしたりすることで、情報提供している。

(4) 資料 27 「懲戒指導のまとめ」について

委員：昨年度に SNS 関連のものがあるが、4 月に実施された SNS 講習会で改善できるものなのか、今後も引き続き指導が必要なのか。

事務局：情報発信のマナーについては、すぐに改善されるものではない。SNS に喫煙や飲酒をしている写真を投稿する、陰口を言う、といった事案が生徒からの報告で発覚することもある。講師も方にも事情を伝えて後援して頂いたが、今後も引き続き指導が必要であると考えられる。

(5) 資料 19 「平成 30 年度 ベーシック教養」について

委員：ベーシック教養の受講前後における生徒の学力を検証しているには非常に良いことだと思う。学力の向上が目に見えるのは生徒にとっても、実施している教員にとっても大変うれしいことであると考えられる。

(6) 資料 34 「校内教育相談、学習支援体制」について

委員：定時制を多く経験されている SSW が週に 1 回来られているということだが、教育相談委員会と SSW との連携はどのようになっているのか。

事務局：教育相談委員を、SSW 担当と SC 担当と支援コーディネーターの担当の計 3 つの部門に分けて、それぞれの部門で役割を担っている。

委員：不登校を経験している生徒は、「できた」という経験が少なく、自分に対する期待が持てていないように感じる。定時制高校において基礎学力の向上や教育相談分野を充実させることは、生きる力や人格の基本を培っていくことに繋がると思う。さまざまな課題を抱えた生徒がいるが、たくさんの方が入っていることによって、情報過多になりがち。あらゆる方法を試すことは大切だが、必ず中心には生徒自身がいることを忘れないように指導して欲しい。

(7) 資料 32 「中学校訪問」について

委員：定時制高校は、保護者だけでなく中学校の進路指導担当の先生からも偏見をもたれやすい。内部を知らないどうしてもマイナスのイメージが

ついてしまっている。中学校訪問等を通してもっと地域の方にも理解されていけば良いと感じる。

委員：定時制高校は、今まで居場所のなかった生徒を受け入れる場になっている。中学校の先生にも、定時制高校という選択肢を是非もってもらいたい。

委員：中学校訪問が功をなして、志願者数も増加しているように思われる。進路の先生を高校に招き、学校内の様子を見てもらうのも良いのでは。

事務局：お褒めの言葉をいただいて大変ありがたい。本校はきめ細かな指導をしているが、しかし、まだまだ課題も多い。授業中に携帯を触る・私語・居眠りなど、規範意識の確立が不十分である。しかし、生徒にもさまざまな背景があり、一貫した指導がしにくい。また、生徒の事情を別の生徒に話すことは不可能であるため、指導に関してはまだまだ課題が残っている。外部機関とも連携をとりながら、生徒に「定時制高校を選択してよかったな」と思ってもらえるよう指導を続けていきたい。

一昨年までは中高連絡会議という機会を設けていたが、中学校の先生も多忙であるということで、招くのではなくこちら側が訪問するという形をとっている。

委員：課題についてはチームとして対応する必要がある。SSW や外部機関などを巻き込んで、先生と生徒の信頼関係を築いていければよい。

委員：居場所づくりという観点から、図書館の有効活用もできればよいのでは。

事務局：司書の先生が全日の先生であるので、時間面においても制限がかかってしまい、あまり利用する機会がないが、授業でも年2回は図書館を活用するなど取り組みを行っている。

## 5. 議決事項

- ・令和元年度使用教科用図書の選定について

以上について学校運営協議委員の承認を頂いた。

☆第2回 学校運営協議会は10月30日（水）18：00～